

令和4年度赤羽駅東口地区まちづくり全体協議会 第4回幹事会 <記録概要>

開催日時 令和5年2月21日(火) 14:00~15:50

会場 赤羽会館 小ホール

出席者 協議会幹事:14名 オブザーバー:5名

事務局:北区まちづくり推進課、都市企画工房(コーディネーター)

配付資料 資料1 令和4年度第4回幹事会スライド投影資料

資料2 幹事会ワークショップまとめ資料

資料3 まちづくりワークショップまとめ資料

=====

1. 開会

(会長挨拶)

- ・協議会の尾花会長より、今期の活動目標である「まちづくり懇談会」の開催や、「まちづくり提案」の取りまとめに向け、活発な議論をお願いしたいとの挨拶があった。

2. 議題

○幹事会活動の振り返り(資料1 P4~5)

- ・これまでの幹事会活動について、事務局から以下のとおり振り返りを行った。
 - ◇平成27年度に「ゾーニング構想」を策定
 - ◇再開発の動きが、構想で「地域の拠点施設」と位置づけた赤羽小学校エリアと大きく関係。
 - ⇒方針「地域の拠点施設の在り方をはじめ、地域が求める方向性を示す」
 - ◇方向性の検討過程では、まちづくり懇談会を開催し、広く意見を伺う。
 - ⇒たたき台を示すため、5月の「幹事会ワークショップ」から検討開始
 - ⇒たたき台の段階から住民の視点を取り入れるため、「まちづくりワークショップ」を開催
- ・今回の幹事会は、各ワークショップを基に、懇談会に諮る内容を検討する段階である。

○幹事会ワークショップの取りまとめ内容の報告(資料1 P6~11、資料2)

- ・幹事会ワークショップについて、事務局から以下のとおり報告があった。

【実施方法】

1回目:テーマ掘り起こし、2回目:なりきりロールプレイ、3回目:地図上への落とし込み

【まとめ資料(資料1 P9~11、資料2)の形式】

◇「目指すまちのイメージ」として特徴をまとめた。

◇実線枠内:3回目に集約された意見 点線枠内:2回目までに出た意見(各案に記載)

【A班の1案目の特徴】

◇拠点機能は赤羽小学校を軸とし、再開発では公園や広場、文化施設など一体的なまちづくりを行う。

◇赤羽会館や赤羽公園をリニューアルし、回遊性を持たせる。

【A班の2案目の特徴】

- ◇赤羽小学校は現位置で、拠点の一角とするのが良い。
- ◇教育環境への影響が大きい場合、赤羽小学校は、赤羽会館や赤羽公園の一部などに移設して、現小学校の土地は再開発と一体的に文化拠点などとする方法もある。

【B 班の案の特徴】

- ◇拠点の在り方は赤羽小学校を核とする A 班の 1 案目と近い。
- ◇再開発事業に様々な機能を取り込まず、特に北側などの周辺にも文化施設や憩いの場を設け、赤羽岩淵駅方面との人の流れをつくるという部分である。

(1) まちづくりワークショップの報告（資料 1 P12～18、資料 3）

- ・まちづくりワークショップについて、事務局から以下のとおり報告があった。

【実施方法】

- ◇普段協議会や幹事会に関わらない一般の方を対象に、幹事会と同様にワークショップ形式で昨年 12 月に開催した。2 日間の活発な議論で、新たな視点のご意見も多数頂き、有意義な取組みとなった。
- ◇定員：15 名、応募：20 名 ⇒ 協議会地域内在住の 18 名で実施
- ◇掘り起こしとロールプレイを 1 回目に行い、2 回目には地図に落とし込んだ。

【まとめ資料（資料 1 P15～17、資料 3）の形式】

- ◇「目指すまちのイメージ」として特徴をまとめた。
- ◇ポイントとなる意見が出た経緯を整理した。
- ◇新たな意見は赤字、幹事会ワークショップやそれ以前に出た意見を黒字や青字とした。

【A グループの特徴】

- ◇再開発ビルや拠点施設のある西側は来街者ゾーンとし、公園や広場を設ける。
- ◇赤羽公園を含む東側は地元のゾーンとして、双方をつなぐ動線をつくる。
- ◇赤羽小学校は現在地が良いが、日影等を考えると、公共施設と共に赤羽会館の方へ移転することも 1 つの案である。

【B グループの特徴】

- ◇リセットでなくリニューアルのまちづくりを掲げ、赤羽小学校と再開発を絡めて賑やかなエリアをつくる。
- ◇赤羽公園は新たな魅力を持つよう整備して落ち着いたエリアとし、両エリアを魅力的な街路で繋ぐ。

【C グループの特徴】

- ◇東側の住宅エリアにたまり場を設けることや、赤羽駅と赤羽岩淵駅をにぎわい空間として繋ぐ。
- ◇拠点に関して、赤羽小学校を複合化し、文化施設や交流機能、交通機能を持つ施設にする。
- ◇各再開発地区が協調し、歩行者路など人を導く空間づくりが必要である。

【全体を通じて】

- ◇各グループ共通の意見としては、駅前広場の整備で、幹事会とも共通の認識であった。
- ◇各エリアをつなぐ並木道の整備やオープンカフェなどを出店しやすく、歩いて楽しい歩道空間の整備など意見が数多く出された。
- ◇参加者は、熟年の方から子連れのお母さんや若い男性まで、世代・性別共に多様であった。

(まちづくりワークショップの質疑)

- ・「懇談会は、大勢参加でき、様々な意見が寄せられるようにしてほしい」との意見があった。

(2) まちづくり提案の方向性とまちづくり懇談会に向けて (資料 1 P20)

- ・「地域の拠点施設」の認識についての確認を事務局から以下のとおり行った。
 - ◇これまでの意見として、地域の活動拠点は現在赤羽小学校があるエリアであり、かつ赤羽小学校は拠点の構成施設として現位置にあり続ける方が良いとの意見が多い印象である。
 - ◇一方、より良い教育環境の確保には赤羽公園などに移転させることもあり得るのではとの意見も、両ワークショップで出ている。

(「地域の活動拠点」質疑)

- ・「活動拠点の意味」について質問があり、事務局から、ゾーニング構想策定時にあった、「かつて小学校自体がまちのコミュニティの中心だった」という話を紹介し、これらも含め、どういった活動拠点がふさわしいか考えればよいとの説明があった。
- ・「まちづくり提案は1つだと、それが良い悪いになるため、2つ以上が良い」との意見があった。
- ・「学校や会館の複合化は、その次の更新を考え、複合化しない方がよいのではないか。なでしこ小学校複合化の満足度はどうか。」との質問があった。事務局から、区の公共施設再配置の方針や事例紹介を行い、赤羽も学校だけで賑わいが不足する場合、文化、スポーツ施設等の案があるが、適切か議論していけばよいとの説明があった。
- ・「再開発事業の第二・第三地区の状況」について質問があり、事務局から、権利者の合意形成と事業計画の検討を進めている旨の説明があった。
- ・「赤羽駅西口の再開発が成功したのか。また、日本中同じように駅前に再開発ビルがあるのがよいことか」という質問があり、事務局から、防災上の成果や、他と差別化して赤羽らしさを大切する計画となるよう意見していけばよいとの説明があった。
- ・「再開発後の時間経過で新たに発生する問題を解決する仕組みの必要性や、再開発後にまちが先枯れしないよう、動線を考えるべき」という意見があり、事務局から「身の丈再開発※」の説明があった。(※無理に大きなビルを建てず、地域性に合わせた事業を行うというもの。)
- ・「再開発事業について、求める機能の議論についての質問や、事業者へ地元意見の反映を指導すべき」との意見があり、事務局から、住民同士で提案を取りまとめることの意義や、各々思いを提案に盛り込み、各主体が提案を意識してまちづくりを行うことを目指せば良いとの説明があった。

(まちづくり提案の形式例の説明)

- ・まちづくり提案のまとめ方の形式例を事務局から示し、体裁についての議論を行った。
- ・まちづくり提案の中身はまちづくり懇談会の意見も含めて、議論することとし、今回はまとめ方の方向性について意見交換を行った。

【まちづくり提案の形式例の考え方 (資料 1 P22~23)】

- ◇将来のまちづくりの方向性や思いなどを記し、関係者全てが共有、意識できるものにする。
- ◇はじめに提案取りまとめの背景や目的を示す (ベースを前振りとしてまとめる)。
- ◇中身について、ワークショップや懇談会等の意見をもとに、簡潔な文章にする。
- ◇多くの思いを包含した表現とするため、複数項目とする。
- ◇形式例は文書のみだが、分かりやすくするため、各文章とイメージ図などを紐づける。

【まちづくり提案の形式例の説明（資料1 P23）】

- ◇「赤羽小学校がそのまま存置し続けることが望ましいというのが多く出た」という部分は、事実関係として書くと良いかもしれない。
- ◇「地域の活動拠点」として一層機能するため…」とあるが、求める機能や内容を書き込むことも考えられる。
- ◇「事業化の検討が進む市街地再開発事業は…」とあるが、期待や懸念を記載すると、事業者配慮を促すものになる。
- ◇「もしも教育環境への影響が顕著であるときは…」とあるが、相反する項目を記載するよりは、選択肢を示すこともできるし、どちらでもない表現にする方法もある。
- ◇駅前広場や赤羽公園についても盛り込み、こんな風にとイメージを書いても良い。

（まちづくり提案の形式例への質疑）

- ・「公園を使いやすくななどのイメージを初めに提案する方が分かりやすい」との意見があった。
- ・「ゾーニング構想は策定時から状況が変わっており、修正すべき」との意見があり、事務局から、本構想は計画図ではなく、皆の共通認識をまとめたものと捉えればよく、提案に合わせて修正することも柔軟に考えてはどうかとの提案があった。
- ・「赤羽南の工場跡地の大規模マンション住民が駅前エリアへ回遊する工夫が必要である。また、稲田小学校跡地を複合施設にすべき」という意見があり、事務局から、そういった視点も含めた提案とすればよいという説明があった。
- ・「赤羽公園について、要望で修繕された箇所もあるが、傷んだ箇所が多い。もう少し整備すべき」との意見があり、事務局から、提案での表現の工夫が必要であるとの説明があった。
- ・「赤羽公園や赤羽会館、商店街についてもまとめ方の例の提示がほしい」との意見があった。
- ・「現実問題は老朽化対策を考えると、学校や公園や会館をどうするかであり、小学校は現地改築か、会館や公園を使うかといった議論が必要」という意見があった。
- ・「再開発事業の第二・第三地区へ要望はできるか、赤羽小学校はビル風等の懸念から、移転せざるを得ないのか」という質問があり、事務局から、移転すべきでないとの意見もあるので、要望を提案に盛り込み、再開発の事業主体に思いを伝えるのが協議会のできることであるとの説明があった。
- ・基本的にこの形式でまとめていくことで、了承された。

（まちづくり懇談会の開催方法）

- ・まちづくり懇談会の開催方法等を次回事務局から提案するにあたり、大枠の説明や議論を行った。
- ・大枠の承認をいただければ、次回幹事会で具体的な企画提案をすると説明があった。

【まちづくり懇談会の実施方法】

- ◇小グループごとに分かれた座談会形式とする。

（理由）①これまでもワークショップ（小グループ）で活発な議論ができたことを考慮。

②大人数では、発言しにくい方もいる。

- ◇ワークショップの延長線のように、ワークショップ等の成果（地図）を用い、議論を促す。

（まちづくり懇談会の実施方法の質疑）

- ・「参加方法に関する質問や、意見が小グループで止まらないようにすべき」との意見があり、

事務局から、人数制限なく誰でも参加できる形式とし、各グループでの意見の発表記録や幹事会へのフィードバックを徹底する旨の説明がなされた。

・企画の方向性について、了承された。

(3) 協議会人事について (資料 1 P24~25)

- ・尾花会長より、今季限りで退任したいと事務局に申しつけた旨のお話があった。
- ・これを受けて事務局から、コロナ禍で中断した数か月を充てる形で、提案とりまとめまでは現人事で活動継続を継続し、次期人事案は次回総会にて決議する提案があった。

・人事案について、了承された。

3. その他

(東洋大学との取組み 資料 1 P27)

- ・東洋大学と今後の連携の可能性について、事務局から以下のとおり報告があった。
◇同大学齋藤先生によると、今年度からライフデザイン学部1年生の春期講座として、赤羽一丁目エリアに関する課題を実施しており、発表を地元の方に聞いてもらい、意見をいただきくなど、大学生と協議会の交流の可能性について、意見があった。
- ・協議会には、「東洋大学連携部会」もあり、東洋大学との協力はまちづくりの上で大切な要素と考えられるので、詳細は、改めて幹事会で意見交換したいとの説明があった。

閉会

(次回日程)

- ・次回幹事会は、約1か月後の3月29日(水)の午後2時で了承された。

以上

◆当日の様子

